

市民と行政が一緒に地域課題の解決策を考えるコンテスト
チャレンジ!!オープンガバナンス(COG)2018

革新的な保育士確保策の アイデアについて

2018.10.19 (金) 16時～
於：UDCBK

草津市子ども家庭部幼児課

子ども・子育て支援新制度スタート

(H27～)

みんなが、子育てしやすい国へ。



すくすくジャパン!



「量」の拡充

- 待機児童の解消
- 子どもの年齢や親の就労状況に応じた受け皿の確保
- 少子化と施設の統合



「質」の確保

- すべての子どもに「質の高い幼児教育」を実施
- 職員の処遇改善
- 研修の充実とキャリアアップ
- 指導方法の改善



子ども・子育て支援新制度の目的

草津市子ども・子育て支援事業計画

基本理念



子どもの人権が尊重され、子どもと大人が
ともに育ちあい、笑顔輝くまち草津

目指す子どもの姿
「草津っ子」

心豊かでたくましく生き、未来をつくる草津の子ども

【健康・体力】

いのちを大切にし、
育む子ども

【学び】

よく考え主体的に
行動する子ども

【豊かな人間性】

人と豊かに
関わる子ども

【地域】

生まれ育った地域に
愛着をもつ子ども

すべての子どもたちが、幼少期から成人するまで、家庭・地域・幼稚園・保育所・学校で多くの人の愛に育まれながら、未来を担う存在として健やかに成長することを願い、社会全体で子どもの育ちを応援していきます。

草津市内の保育所・幼稚園等

(平成30年4月1日現在)

66施設

公立保育所	3施設
公立幼稚園	7施設
公立認定こども園	3施設
私立保育園	16施設
私立認定こども園	5施設
小規模保育施設	12施設
家庭的保育施設	5施設
認可外保育施設	8施設
事業所内保育施設	7施設



待機児童 県内439人

2年連続増 自治体間で差

自治体が認可した保育施設に入れない「待機児童」の数が、県内では今年4月1日現在で計439人に上ったことが厚生労働省のまとめでわかった。県によると、昨年同期比では83人増え、2年連続の増加となった。国が待機児童の定義を広げたことを受け、一部の自治体で昨年から大幅に増加した一方で、新定義でも減らした自治体もあり、自治体間で差が出た。

県によると、待機児童数が最多だったのは守山市で84人(前年同期比9人減)。次いで栗東市が70人(同17人増)だった。このほか大津市58人(同58人増)、甲賀市48人(同48人増)などと続いた。

昨年同期よりも増加したのは10市町あった。そのうち大津市や甲賀市、高島市など6市町の昨年同期の待機児童数はゼロだった。厚労省のまとめによ

■県内各市町別の待機児童数

	18年	17年
守山市	84(▼9)	93
栗東市	70(17)	53
大津市	58(58)	0
甲賀市	48(48)	0
東近江市	35(▼9)	44
彦根市	29(9)	20
高島市	28(28)	0
湖南市	27(17)	10
野洲市	22(6)	16
長浜市	15(▼20)	35
近江八幡市	7(▼64)	71
草津市	0(▼2)	2
米原市	0(0)	0
愛荘町	11(▼1)	12
豊郷町	2(2)	0
甲良町	2(2)	0
日野町	1(1)	0
竜王町	0(0)	0
多賀町	0(0)	0
合計	439	356

いづれも4月1日時点。カッコ内は前年同期比の増減、▼はマイナス

ると、増加数は大津市が全国で11位、甲賀市が14位だった。一方で、草津、米原、竜王、多賀の4市町は、待機児童数がゼロだった。

士の確保が進まず施設の利用定員を減らしている自治体もあるという。

県内の昨年度の保育士の有効求人倍率(有効求人数を有効求職者数で割ったもの)は2.65倍で全業種の1.33倍と比べ、ほぼ2倍となっている。近年、求職者数に対して求人数の高止まりが続いているという。

県は県内の保育施設への就職を促そうと、9日に彦根市のビバシティ彦根、16日に大津市のコラボしが21で「滋賀の保育所・認定こども園就職フェア」を開く。両日とも午後1時から午後4時。問い合わせは県保育協議会(077・516・9090)へ。

定員増へ対応急ぐ

施設整備や保育士確保

待機児童数を減らすことが市町は対応を急いでいる。

今年の待機児童数が84人と県内の市町で最多だった守山市。ベッドタウンとして子育て世代の人口が増え、保育需要も高まっている。

る。4月までに小規模保育所を5カ所新設した。来年度からは、さらに2カ所増やす方針。このほか市立保育園を民営化することで定員を2倍近くに増やすという。

一方で、「保育士の確保も大きな課題」と市の担当者。市は昨年度から独自に保育士の処遇改善をするなどして確保に努めているが、湖南の4市を中心に隣市と保育士の取り合いになっているという。市の担当者は「民間の力も借りて、保育士確保のネットワークを広げたい」と話す。ゼロだった待機児童数が

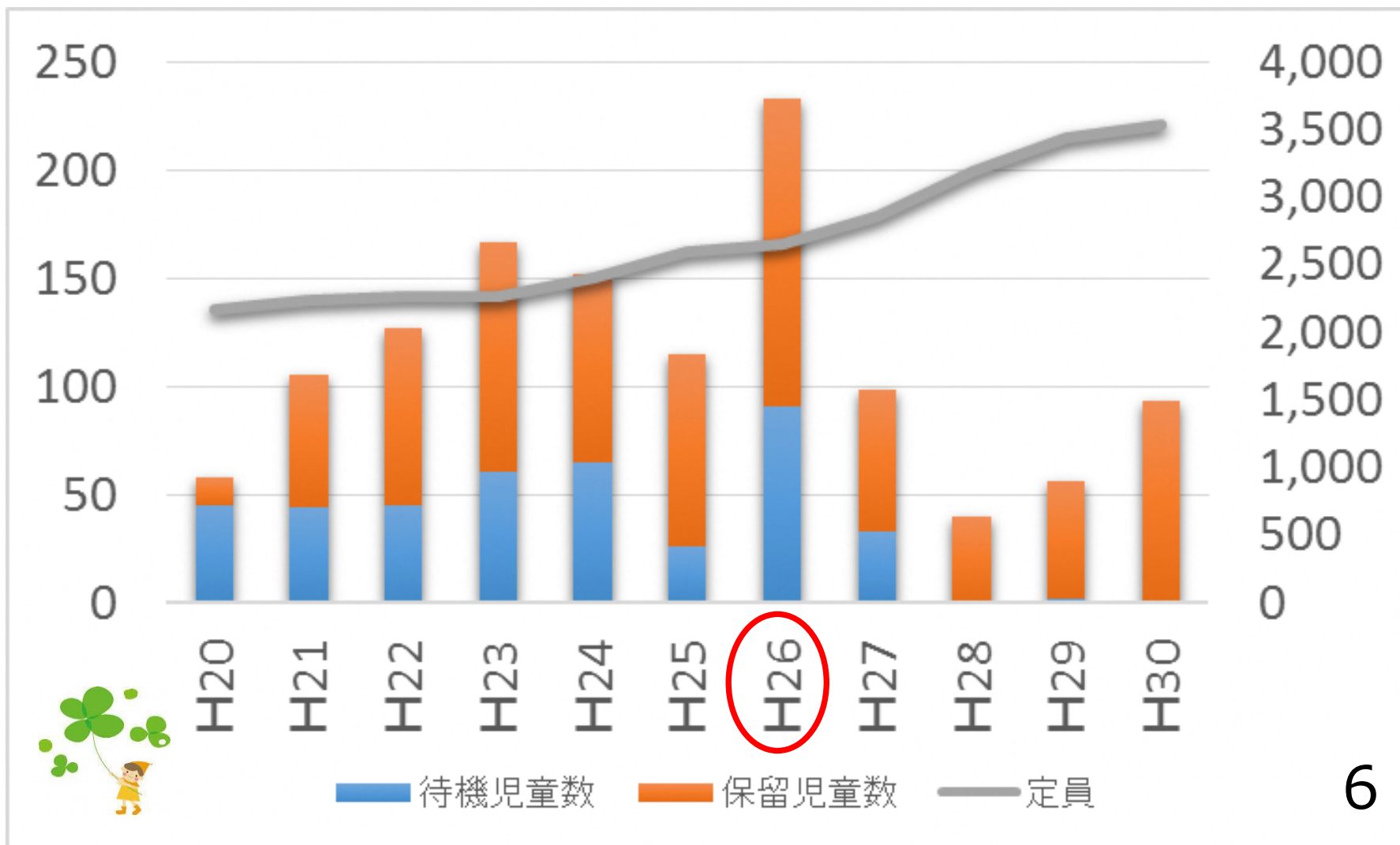
増加に転じた自治体では、危機感を募らせている。

大津市は4月に「待機児童緊急事態宣言」を出し、新たに保育士を採用した施設に補助金を出すなど独自の対策を進めている。甲賀市は「現実として施設に空きがなかった」(市の担当者)として、施設の増築に取り組み。高島市の担当者は「0〜2歳の低年齢から預けたいというニーズが高まる一方で、それを受け入れられるほど保育士の数が足りていない」と分析した。

(真田 嶺)

草津市の保育施設定員と待機児童数の推移

単位:人



保育士を取り巻く状況

4.99

有効求人倍率(全国平均 3.38)

(「一般職業紹介状況(保育士)(平成30年1月)」厚生労働省、2018)

18/19

「保育士人材が不足している」と回答した県内自治体数

(「保育人材確保に関する各市町の取組み状況調べ」滋賀県、2018)

施設は増やせても、人材が不足している・・・問題



- * 開所時間・・・11時間
- * 増える特別支援の対応
- * 子育て支援・養育支援対応
- * 保育事故を防止するための日常対応

保育現場の課題

- 女性が多い職場であり、結婚退職や妊娠・出産に伴う休暇の取得で、絶えず欠員状態を抱えている。
- 「11時間保育」(保育標準時間)の増加に伴う、「早延長保育」対応の人材が不足している。
- 0歳児保育の増加に伴う、「乳幼児突然死症候群」やアナフィラキシーショック等、リスクを伴う対応の増加。
- 自身の子育てや家庭生活も大事にしたいけれど、勤務時間が長かったり、持ち帰り等の業務量が多かったりして保育者が負担感をもちやすい。

保育の質は確保したい

保育者には保育の専門家としての大きな役割があり、またその行為こそが、保育者としての喜びにつながっている。



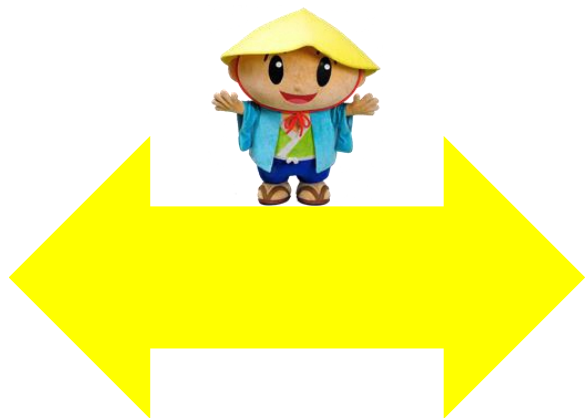
- 質の高い保育提供のために、常に学び続ける保育者であってほしい。(労働環境の改善と共に働く値打ちを・・)

➡ ノンコンタクトタイム(教材研究の時間の確保)
計画的な保育のための研究・実践・研修



「草津市で保育をしたい！」につながるように……

余裕をもち、
充実した保育をしたい



いっぱい
受け入れてほしい

